

「戦争と平和」を考える～パネル展を開催します

市役所1階市民ホールにて、1月13日（火）から20日（火）にかけて、パネル展「ヒロシマとナガサキ 原爆と人間」（日本被団協制作）を開催します。終戦後80年を迎えた節目の年ですが世界では今もなお戦禍に苦しんでいる人がたくさんいます。当時の状況を知り、「どうして戦争が起こっていったのか」「平和とは何か」を改めて考える機会にしたいと思います。



第6回人権教育講座「山びこ」

平和・人権コンサート

「みんな大切な命」

おおしま くみこ

大島 久美子さん

ヒロシマのソプラノ歌手

人類は平和を願い、平和の尊さを叫び続けているのに、一向に戦争がなくなるのはなぜでしょうか？

平和とは何か。それぞれの立場で、改めて考える時間を、歌とともに穏やかに過ごしたいと思います。



1月24日 **土** 13:30～15:00

コミュニティセンター
(セイセイビル)文化ホール

第7回人権教育講座「山びこ」

第7回「山びこ」は、生駒市人権教育推進協議会の研究大会の記念講演として実施します。市人推協の活動報告として、**「生駒市保護司会」**の報告もあります。申し込み不要の公開講座として開催しますので、ぜひご参加ください。

記念講演

「ヤブにもなれないタケノコ医者」 ～父との約束～

みずの たくろう

水野 宅郎さん

医療法人水野クリニック理事長・医学博士

鑑別所・少年院を経て、猛勉強し医学部に進学。卒業後は多様な医療現場で経験を積み、河内長野市で父の医院を継承。『患者の想いに応える』を理念に、地域医療や終末期医療にも尽力しておられます。



2月28日 **土** 13:30～16:00

コミュニティセンター
(セイセイビル)文化ホール

【申込不要】**入場無料** 当日先着**200名**
「山びこ」受講者は「山びこ」受講者受付にお越しください。それ以外の方は、記載台にある参加票に記入の上、受付に提出してください。

【託児】申込締切日までに、電話でお子様の氏名・年齢、保護者の氏名・住所・電話番号をお知らせください。

申込期間：〈第6回〉1/5（月）～1/16（金）
〈第7回〉2/9（月）～2/20（金）
○手話通訳と要約筆記があります。
○車での来館は控えてください。

【問合せ】生駒市人権教育推進協議会（生駒市人権施策課内） ☎0743-74-1111

やまなみ

広報 NO.58

生駒市人権教育推進協議会

事務局 生駒市総務部人権施策課内
Tel.0743-74-1111
email:jinkenkyouiku@city.ikoma.lg.jp

発行 2025年12月12日

生駒市人権教育推進協議会（市人推協）は現在、市内の28団体と5名の個人会員で構成され、市民のみなさんと共に、人権が尊重されるやさしいまちづくりをめざし、歩みを進めています。本年度の活動の一端を紹介いたします。今後も市人推協の活動にご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

人権教育講座 山びこ

本市では、各家庭・地域・職場等において人権教育を推進するために人権教育講座「山びこ」を開催しています。本講座は、1年に7回、さまざまな人権課題について毎回異なるテーマで講師をお招きし開催している講座です。幼稚園・保育園・こども園や小中学校の保護者、市人推協の会員、民生委員・児童委員、市職員の皆さんに受講していただいています。各講座は広く市民の皆さんにも参加を呼びかけています。本誌では2025年度に実施した第1回から第3回の内容を紹介します。

第1回
7月12日(土)

笑って考えよう！家庭のこと、仕事のこと、未来のこと ～男の家事が社会を救う～

講師：東京大学大学院 総合文化研究科教授 瀬地山 角さん



たけまるホールで、東京大学大学院総合文化研究科 教授 瀬地山角さんを招いての講演会を開催し、224人の方が参加されました。

ジェンダー論の研究者である瀬地山さんは、10年間2人のお子さんの保育園の送迎を一手に担っていらっやって、「男性は、こどもはうめなくても、子育てはできる!」と話されました。

様々な統計データを示しながら、現代の男女の就労や家事分担の現状について、「独身の男女ともに結婚後も働く意思があり、互いに相手に家事・育児の能力をもとめていることがわかる」にも

かわらず、男性の担っている家事時間は少なく、女性はフルタイムで働くことが困難な状況にあると指摘されました。そして、家事・育児をしないことを想定した男性中心の職場の環境について、炎上したCMを例に挙げながら、「植林をしない林業者」のようだとお話されました。参加者は、「働く人皆の背後に子育てや介護があるような現代の課題を、男性の家事が解決していく」という新しいジェンダーに関する視点に戸惑いも感じながらも、改めて考えさせられ学ぶことができた**と80%以上の方が満足**を感じてくださったようです。



第2回
9月19日(金)

「私たちの伝えたいこと」

講師：若年性認知症当事者 横田 宏之さん
若年性認知症当事者 林 佐江子さん
「Kumiki2nd」管理者 藤田 浩司さん



「認知症になったら最悪ですか？」
「最悪」、「なってしまった」、「なったらどうしよう」
そう思う心を見つめ、考える事で自分事としてとらえ考えながら認知症への理解を深められた講演会でした。認知症と診断され、「自分ができること、この思いを伝えたい…」当事者として認知症への理解を深めるため周知活動を行ってきている横田さん・林さん。症状が進行していく中で人前に出るのはとてもエネルギーがいること。多くのことを語ることはありませんでしたが、会場

の優しい眼差しの中、言葉の一つ一つ、一生懸命に伝える姿、その表情から会場の皆さんに二人の思いが伝わっていきました。

「これからもみんなと一緒にがんばろうって」明るく、力強く語る林さん。その前向きな姿に、参加者の皆さんの中には、実体験や家族への思いを重ねた方も多く、体験から得られた気づきや感謝の言葉などが感想として、たくさん寄せられました。

「認知症という枠にとらわれず、人と人。人と向き合っていけるかが大切なこと」藤田さんのお話からは認知症のことを知る・学ぶだけでなく、共に生きる社会について考えるきっかけにもなりました。

第3回
10月17日(金)

「ハラスメントと人権」 ～人間関係を円滑にするために～

講師：特定社会保険労務士 OFFICE KITABA 代表 北場 好美さん



今、社会ではパワハラ、セクハラ、カスハラなど、さまざまなハラスメントと言われる言動が問題になっています。北場さんは一つひとつのハラスメントについて丁寧に説明をしながら、ハラスメントを防止するには知識だけでなく、人を大切にする会社をつくること、いい会社と言われるところはハラスメントを無くそうとするのではなく、人を大切にすることを目標にしていると話されました。今後少子高齢化が急速に進んでいく中で、若い人が辞めていくことのない会社にするには、「明日も皆と一緒に仕事ができる」ことを楽しめるような職場環境、人間関係が不可欠となってきます。このことは、地域づくり、社会づくりにも通じることであり最後に締めくくられました。アンケートには“職場でも社会でもみんなが気持ちよく過ごせるように、他者への思いやりや立場、状況を考えていきたいと思った”“人権を守ることの大切さを改めて感じた”などの感想が寄せられました。

人権教育地区別懇談会

生駒市では、人権が尊重されるやさしいまちづくりをめざし、さまざまな活動に取り組んでいます。その一つとして、自治会のご協力のもと、「人権教育地区別懇談会」(略して地区懇)を開催していただいています。市を「北地区」、「西・中地区」、「東・南地区」に分け、3年に一度の開催をお願いしています。今年度は「北地区」に開催をお願いしました。



いずれの会場とも、人権啓発DVDを視聴後、意見や感想を自分の身の周りや地域の実態や課題と絡めながら意見交流をしました。参加者からは、「人と人とのコミュニケーションはSNSだけでなく、直接顔を見て話すことが大切だと感じた」「自治会役員にあたるまで自治会の行事等にあまり参加していなかったが直接携わるようになり、それではいけないと思っている」「人と関わることの大切さを感じました」などの感想や意見が出されました。地区懇を通して、人権問題をより身近なものとしてとらえていただき、地域での課題解決に向けて動き出す後押しになればと願っています。

じんけんDVDの活用



市の人権施策課にはさまざまな人権問題をテーマにした人権DVDが備えられています。毎年新しいDVDを購入し、「じんけんDVD」という冊子を作って紹介しています。DVDを見て、様々な人権問題について考える取り組みは、学校・園だけでなく、上に紹介した地区別懇談会や自治会内のサロン、親睦を兼ねたバス旅行の車内などでも活用されています。学校・園では「ごめんね、ミーちゃん」「むしむし村のなかまたち」などがよく利用されています。自治会では、昨年購入した「あなたのいる庭」(こどもの人権をテーマとした作品)「みんな笑顔になる日まで」(若年性認知症とヤングケアラーを取り上げた作品)をはじめ、身近にある人権問題を扱った「わっかカフェへようこそ」「ヒーロー」なども幅広く活用されています。貸し出しや内容などについては、市人推協(人権施策課内)までお気軽にお問合せください。

市人推協 理事研修会



戦後80年の節目に
～立命館大学 国際平和ミュージアムを訪ねて

ピース バイ ピース
PEACE×PEACE 「今、あなたが考える平和とは？」

立命館大学国際平和ミュージアムは、世界が戦争へと突き進む19世紀から21世紀の現在まで、日本で、アジアで、世界で、人のいのちや暮らしを脅かし人の豊かな可能性を阻むものは何か、私たちはどのような選択をしてきたのかを物語ってくれています。

戦前・戦中の京都を知ることができる貴重な展示もあり、古都京都にも空襲はあったこと、ミュージアムを訪れてその被害をはじめて知りました。戦争の記憶と平和の歴史をたどるだけではなく貧困問題や環境問題も平和を脅かす要素としてとらえ紹介されていました。「今、あなたが考える平和とは?」「戦争がなければ世界は平和でしょうか?」ミュージアムから投げかけられる質問は、その答えはどれもむずかしくて、これからも考え続けなければならない課題ばかりでした。平和を脅かすものは、戦争だけではない、日常の中に普通に存在しているのだと考えた研修会でした。